

# 埼玉トヨペット Green Brave



## 2018 RACE REPORT

【#68 埼玉トヨペット GB GR SPORT マーク X】

2018年7月14日(土)～15日(日)

ピレリスーパー耐久シリーズ2018

第4戦 TKU スーパー耐久レース

in オートポリス

### 3位表彰台を獲得して、ランキングトップに立つ

スーパー耐久第4戦がオートポリスで行われた。埼玉トヨペット Green Brave は前戦・富士でマーク X 初優勝を達成。大量47点のポイントを獲得し、トップと6点差の年間ランキング2位に浮上した。今回は5時間レースのため、通常の3時間レースと比べて獲得ポイントが多く、ランキングトップを狙うには絶好の機会。

土曜日に行われた予選では、Aドライバーの服部選手が2分03秒291(3位)、Bドライバーの脇阪選手が2分02秒497(6位)をマーク。A、B両ドライバーの合算タイムは4分05秒788で、予選3位となった。2戦連続でポールポジション(予選1位)を獲得しているチームにとっては不本意な結果ではあるが、25kgのウェイトハンディを積んでいることを考えれば上出来。Cドライバーの平沼選手は2分05秒568で5位。但し、平沼選手は自身の公式予選20分間を有効に使い、決勝で使用するタイヤの皮むきや、店舗メカニックとともにピット練習等を行った。

ポイントランキングトップの#38 レクサス IS350は7位、ランキング3位の#62 レクサス RC350は2位。ランキングをリードするためには、2台のレクサス勢の前でチェッカーを受けなければならない。

日曜日の決勝は11時35分からスタート。チームはマーク X の燃費の良さを生かし、各ドライバーが100分ずつ走行する作戦(300分=5時間)を選択。脇阪選手がスタートドライバーを務めた。ガソリン満タンの重い状態でスタートした脇阪選手はライバルの猛追に遭い、1周目を4位、2周目を5位で終える。早く順位を取り戻したいところだが、脇阪選手は長丁場を見据え、自分のペースを守りながら走行。予定通り100分を走り切り、3位走行時の46周目にピットイン。タイヤ交換と給油を行い、平沼選手に交代する。5位でコースに復帰した平沼選手はいったん6位に順位を下げるも、トップと同等のタイムで走行。ライバルのピットインもあり、59周目には5位。87周目には4位、さらに90周目に3位まで順位を上げる。平沼選手も100分間の走行を無事に終え、ピットイン。給油のみ行って脇阪選手に交代し、すぐにピットアウトする。ところがその翌周に再度ピットイン。今度は脇阪選手から服部選手に交代し、タイヤ交換のみでピットアウトする。実はこの連続ピットインは当初から予定されていたもので、ドライバー交代の最低義務回数(3回)をクリアするための作戦。店舗メカニックにはプレッシャーがかかる中での作業となったが、ノーマスで服部選手を送り出し6位でコースに復帰。この作戦が功を奏し、ライバルチームが最後のピットインを行う間にぐんぐん順位を上げ100周目には3位に。しかし、終盤に他クラスの車両に接触されマーク X のバランスが崩れてしまう。そんな中、服部選手はプッシュを続けさらに2位を狙うが約20秒差まで距離を詰めるも追い抜きは叶わず。惜しくも3位でチェッカーを受けるが、チームは19ポイントを獲得しランキングトップへ浮上。2連勝は達成はできなかったが、年間チャンピオン獲得に向けて確実にコマを進めた。

#### ST-3 クラス決勝結果

1位: ADVICS TRACY RC350 TWS DPS(レクサス RC350)	142 周
2位: TECHNOFIRST RC350(レクサス RC350)	142 周
3位: 埼玉トヨペット Green Brave GR SPORT マーク X(トヨタ マーク X)	142 周
4位: DENSO Le Beausset RC350(レクサス RC350)	141 周
5位: 岡部自動車 GO&FUN T-MAN Z34(ニッサン フェアレディ Z)	141 周
6位: muta Racing ADVICS IS350 TWS(レクサス IS350)	141 周

天候: 晴れ 路面: ドライ ※トップ6まで(8台中)

#68 埼玉トヨペット Green Brave GR SPORT マーク X  
(服部尚貴/脇阪薫一/平沼貴之)

決勝: 3位(142周、5時間03分50秒625)

予選: 3位(20番グリッド)



VOICE FROM DRIVERS



予選はポールポジション狙いでいったのですが、思った以上にまわりが速かったですね。決勝は表彰台に上がり、きっちりとポイントをとることができたのでポイントリーダーになりました。でも優勝を目指してここに来たので悔しさは残ります。残り2戦も頑張ります。(服部尚貴選手)



優勝することに越したことはありませんが、今回はこれ以上ない結果だと思います。決勝中はできるだけクルマをいたわりながら走行しました。最後の最後に僕たちの底力を見せられましたし、今後につながるいいデータも取れたので、いいレースだったと思います。(脇阪薫一選手)



無事にフルスティントを走れて良かったです。1時間40分は長いようであつという間でした。僕自身もまだまだ体力が残っていたので、自信につながりました。今回は作戦もよかったので優勝できなかったことは残念ですが、残り2戦は勝ってリードを広げます。(平沼貴之選手)



ST-3 クラスポイントランキング

順位	車番	チーム	ポイント
1位	68	埼玉トヨペット Green Brave	89
2位	38	TRACYSPORTS	86
3位	62	Le Beausset Motorsports	84
4位	39	TRACYSPORTS	78
5位	15	OKABEJIDOSHA motorsport	67.5
6位	34	テクノファーストレーシングチーム	46.5

※6位まで(8台中)

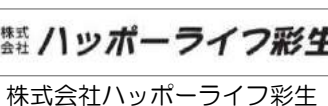
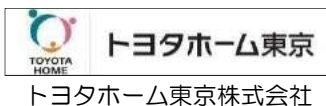
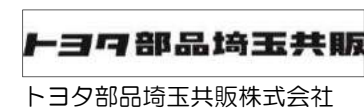
VOICE FROM MECHANIC

初めてレースに参加しました。担当は助手席側のホイールガンです。マーク Xはこれまでも整備してきましたが、レースカーは作りが違うので戸惑うこともありましたが、でもいい経験になりましたね。今回は時間を有効に使うということが一番勉強になりました。今後の業務にも活かそうです。(上尾支店・松ヶ澤拓也)

第5戦 9月22日(土)・23日(日) ツインリンクもてぎ (栃木県茂木町)



埼玉トヨペット Green Brave PARTNERS 協賛各社



※50 音順